

金融支援制度の見直しの方向性について

第2回産業振興会議 議論概要（9/26開催）

《グループ1》

- 14万円の補助額では、事業者にとって融資や保証を受けるインセンティブにならない。予算を他の事業に配分した方が、良いのではないかな。
- 対象金額を絞り、金利ゼロ・保証料ゼロにするゼロゼロ融資の方が、事業者にとってインパクトがあるのではないかな。

《グループ2》

- 支援制度を知らない方が多く制度の理解から議論を始めた。
- 利子補給の支援期間を伸ばしたらという意見もあったが、トータルの予算枠の話をしてもらった。
- 両制度とも一定の利用件数があり、令和7年度で更に金利が上昇するかもしれない中、支援件数の増加や近隣市の状況をもう1年間様子を見ながら、もう一度、来年議論してもよいのではないかな。

《グループ3》

- 利用実績が減っているのは、申請の手間に補助額が合っていないとか、他の制度を利用されているのではないかな。
- 補助金額を大きくして件数を減らすか、補助額を減らす代わりに申請の手間を減らして事業者に早く交付できるようにするなど、そういった見直しも必要ではないかな。
- 他の制度との併用の可否等、補助制度全体について、詳しく説明が聞ける機会を設けるのも良いのではないかな。

《金融機関》

- コロナ禍に設備投資された事業所が多く、事業者向け融資は、資金需要、借入れ需要ともに乏しい状況にある。
- 今後、金利の上げ幅が更に大きくなれば、保証協会付き融資等の長期固定金利商品の需要が高まることも想定される。

金融支援制度見直しに対する産業振興会議議論のまとめ (案)

- ◎ 金融支援制度の認知度が低い。事業者向けの広報を充実するべき。
- ◎ 制度利用者の声を聞き、利用者の声も反映した制度見直しにするべき。
- ◎ 現時点では、コロナ禍の資金調達により事業者の借入れ需要が少なく、金利は更に上昇する局面にあることから、令和 9 年度の産業振興会議で、利用実績と近隣市の支援状況の変化を踏まえ再度議論してはどうか。

外国人労働者雇用に係る支援制度の方向性について

第3回産業振興会議 議論概要（10/29開催）

《グループ1》

- 雰囲気として外国人を雇わないとやっていけない方向にシフトしていると思う。
- 外国人労働者に対する企業ニーズがわからない中では、外国人に限らずUターン、移住者等、幅広い人材確保のための支援制度の方が良いのではないか。

《グループ2》

- 複数雇用する場合、ファーマーズライスのように一軒家を改修することになる。住宅改修に対する支援策はどうか。
- 雇用支援だけではなく、京丹後市のように日本語教育とか、地域とどうコミュニケーションを取っていくかもすごく大切。定着に向けたソフト面を応援するという考え方も一つではないか。
- 外国人雇用に対する支援制度は、介護人材に限定したものの多いが、全業種に対して支援するべきではないか。

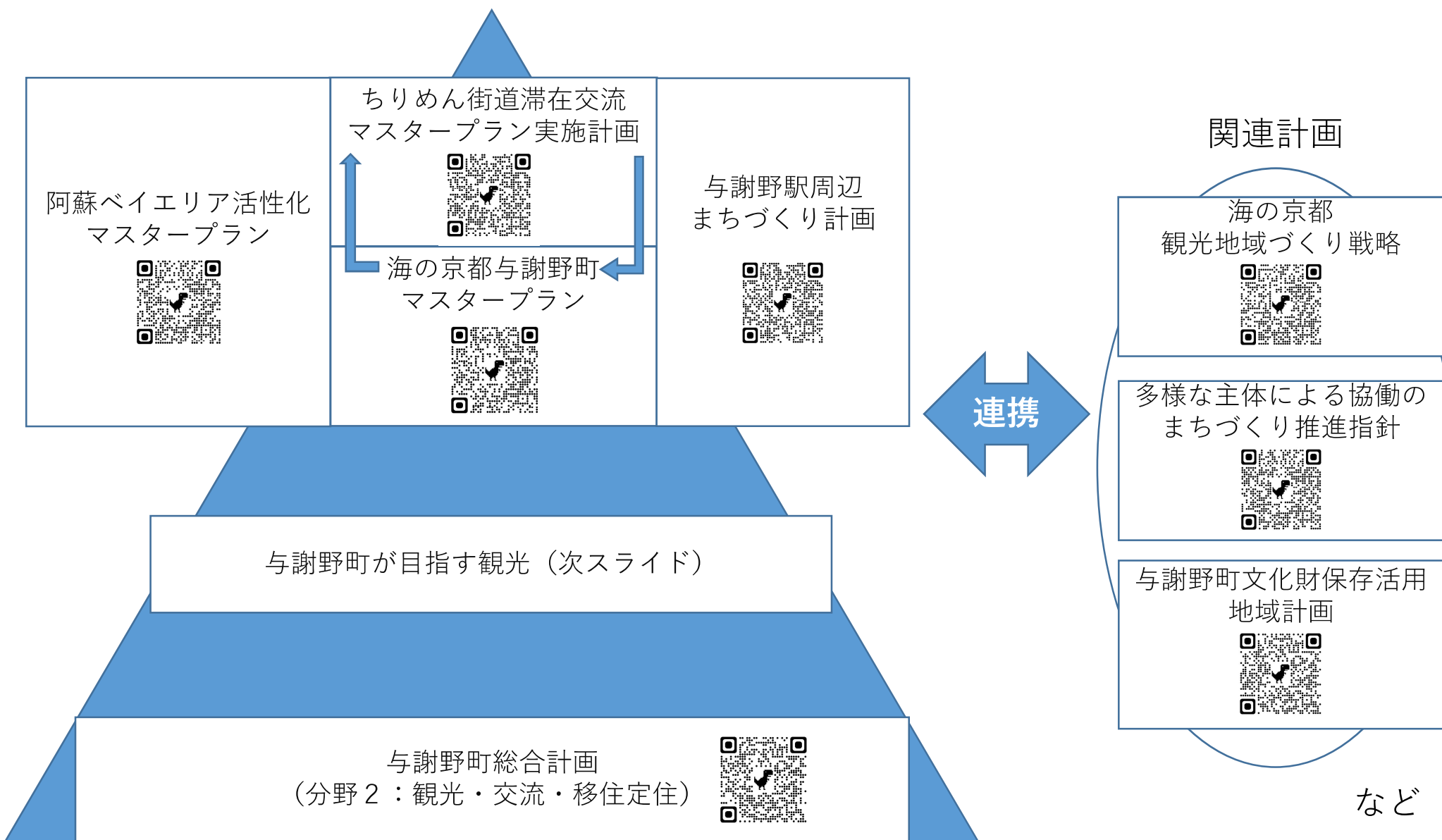
《グループ3》

- 外国人雇用制度や費用まで把握している事業者は少ないと思われる。まずは外国人雇用の制度等を事業者に理解してもらうところから進めていくべきではないか。
- 外国人に限らず、若者に選ばれる与謝野町になるよう、人材確保支援を手厚くしていくべきではないか。
- 将来、外国人人材に頼らないと立ち行かない時代が来る。そこを見据えて京丹後市のように地域で外国人を受け入れる体制や心構え、制度を充実していく必要があるだろう。

外国人労働者雇用支援制度に係る産業振興会議議論のまとめ (案)

- ◎ 外国人や介護人材に限定せず、若者や移住者に選ばれる町になるよう、人材確保に向けた幅広い支援制度を設けるべき。
- ◎ 将来、外国人に頼らないと立ち行かない時代も想定されることから、事業者に外国人雇用制度を理解してもらうことから進めていくべき。
- ◎ 地域が外国人を受け入れるための心構えや体制づくり等、外国人の定着・定住に向け、ソフト面を含めた包括的な体制整備を進めていくべき。

観光地域づくりに係る計画体系図



など

与謝野町が目指す観光

～なぜ観光？～

- ・ 定住人口減少分の消費を補える→地域にお金落ちる（例、国内旅行者（宿泊）23人＝定住人口1人）
- ・ 「持続可能な観光」→地域の経済、社会、環境への影響を十分に配慮。地域づくりに貢献。

～観光課題～

- ・ キラーコンテンツになりえる「観光地」が乏しい、観光消費額が上がらない、プレイヤーの不足など
- ・ 丹後という観光地域に位置しながら、コンテンツ不足とアクセスの向上により「通過」される町に…

～与謝野町の観光戦略～

ちりめん街道を核として、「大江山」や「阿蘇海」の自然、ちりめん街道の歴史的景観、道の駅やホップ（ビア）ツーリズムなどの観光資源を国内外に広く発信するとともに、観光客に対しての様々なおもてなしを提供することで、「よさの」を体験・体感してもらい、よさののファンになってもらえるような観光を目指す。

「持続可能な観光」の推進

キーワードは

「体感・体験するよさの」

⇒平成30年度から観光協会が他地域との差別化を図るという観点から「体感・体験」をキーワードとした「本格着物体験」「各種フィールド体験」など滞在コンテンツづくりに力を傾注し、観光戦略に沿った事業展開を実施

1. ちりめん街道の概要について

与謝野町

■ 概 要 ■

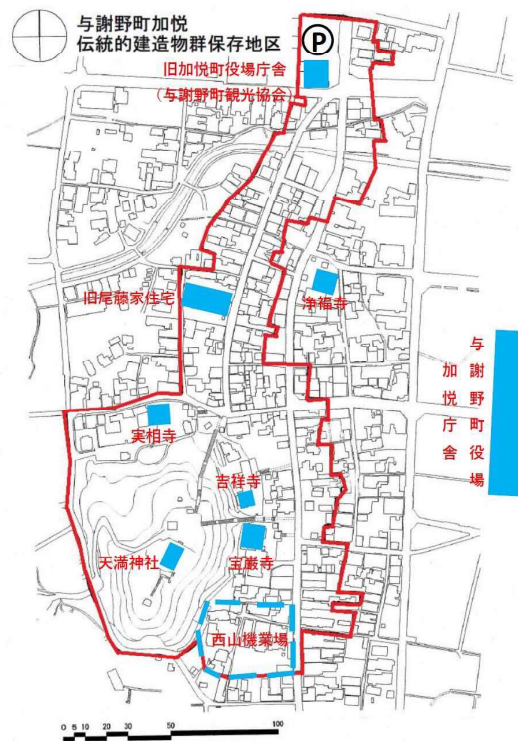
名称	与謝野町加悦重要伝統的建造物群保存地区（ちりめん街道）
種別	製織町
所在地	京都府与謝郡与謝野町字加悦、字後野の各一部
面積	約12.0ヘクタール
条例制定日	平成16年12月27日
地区制定日	平成17年8月1日
保存計画決定日	平成17年6月13日
選定日	平成17年12月27日
選定基準※	（二）伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの

※重要伝統的建造物群保存地区選定基準

伝統的建造物群保存地区を形成している区域のうち次の各号の一つに該当するもの

- （一）伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの
- （二）伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの
- （三）伝統的建造物群及びその周囲の環境が地域的特色を顕著に示しているもの

江戸～昭和期のちりめん商家や医院、銀行などかつての町の賑わいを伝える建物が多く現存



【見どころ／取組事例】

- 旧尾藤家住宅（国重要文化財）
令和6年1月19日に国重文指定



- 旧加悦町役場庁舎（府文化財）
与謝野町観光協会が所在



- 地域住民による年3回の街道市
 - ・ゆかたでぶらり♪ちりめん街道
 - ・きものでぶらり♪ちりめん街道
 - ・ちりめん街道ひなめぐり



2. ちりめん街道滞在交流マスタープラン実施計画について

現 状

○平成26年1月に策定した海の京都与謝野町マスタープランに基づき各戦略を実施

H17:国重要伝統的建造物群保存地区に選定

R5:日本遺産認定継続決定

R6:旧尾藤家住宅（街道内）国指定重要文化財に指定

課 題

○一方で、海の京都与謝野町マスタープランの戦略の中で、現状との乖離が発生。例えば、
・視察を踏まえ、街道内道路の自然色舗装を実施しないと判断
・実施し、完了した戦略が掲載されている等

○与謝野町の魅力を活かせていない（ミスマッチ）
○お金を落とすところが少なく、観光消費額が上がらない
○そもそも“観光のまち”という意識がない
○人口減少や空き家増加等

展 望

○海の京都与謝野町マスタープランの「ありたい姿」、「基本テーマ」、「目標・イメージ」は受け継ぐが、戦略については見直すこととし、新たな戦略として、「ちりめん街道滞在交流マスタープラン実施計画」をR6年度に策定

同実施計画に基づき、住んで良し、訪れて良しの持続可能な地域づくり（観光含む）を推進

今 後

○与謝野町加悦伝統的建造物群保存地区保存計画の改定
重伝建選定から20年が経過する今年度、空き家対策の必要性や地区の魅力発信といった新しい課題への対応指針を盛り込んだ保存“活用”計画へと改定を予定。

※「ちりめん街道滞在交流マスタープラン実施計画」

ちりめん街道滞在交流マスタープラン実施計画

【概要】

○実施期間：令和6年度～令和8年度

○実施計画における主なプロジェクト

空きスペース対策

- ・空きスペースの活用（空き家等の民間活用推進）
- ・空き家活用促進担当の地域おこし協力隊募集 など

受入気運醸成

- ・地域協働による環境整備（街道暖簾作成、ガイド育成等）
- ・観光交通実証実験
- ・観光誘客促進担当の地域おこし協力隊の募集

環境負荷の少ない体験・体感型観光コンテンツの展開

- ・日本遺産関連コンテンツの造成

～海の京都与謝野町マスタープランの戦略～



令和6年12月

ちりめん街道滞在交流マスタープラン実施計画策定委員会

町公開web
二次元コード



阿蘇ベイエリア活性化マスタープラン

■どのようなもの？

- ・与謝野町観光振興に係る計画の1つ
- ・平成28年3月に策定 ※約10年前



阿蘇ベイエリア活性化
マスタープラン

■目的

- ・平成27年度の主要施策『与謝野町ブランド戦略事業』
産業振興をまちづくりの中核に据えた地域ブランド戦略（三本柱）
①ものづくり産業の強化 ②エリア構築 ③プロモーションの強化
⇒「エリア構築」
 - ・起業や創業を呼びおこす空間づくり
 - ・ファンを増やす
 - ・未来を感じられる“場”づくりと住民の機運醸成

■対象範囲

- ・与謝野町の弓木、岩滝、男山地域
- ・「重点エリア」として、阿蘇シーサイドパーク周辺
⇒マスタープランでは、「阿蘇シーサイドパーク周辺」



■策定方法

- ・隈研吾建築都市設計事務所と Open A（公共 R 不動産）
- ・住民の方が参加されたワークショップ（2回）
- ・お試しで、醤油倉庫での「食」の提供、織物製品の展示、シーカヤック・SUP体験（3日間）
- ・事業計画発表会



■内容

- ・目的達成に対する10個の課題を挙げ、それぞれを解消する方法（10項目）がまとめられている

■見直し

- ・マスタープランの実現方策→機能していない内容がある→要因の整理→更新
- ※もとの内容の確認（社会的背景・環境の現状）、時代の変化
地域住民・町民の思い・ニーズ
- ※令和5年度に実施したサウンディング結果